

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいりんく糸満大里			
○保護者評価実施期間	2025 (R7) 年 4月 1日 ～ 2026 (R8) 年 3月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	2人
○従業者評価実施期間	2025 (R7) 年 4月 1日 ～ 2026 (R8) 年 3月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026 (R8) 年 5月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	チームによる支援体制と情報共有の徹底。	朝礼・夕礼・月次定例会議を通じ、全職員が支援内容・児童の状況を共有。PDCAサイクルを意識した運営を実践している。	会議記録の蓄積・活用により、支援の質のさらなる向上を図る。
2	個別支援計画の丁寧な作成と保護者との連携。	モニタリング会議・担当者会議・連絡帳・送迎時の対話を通じ、保護者と日常的に情報共有し、個々のニーズに応じた支援計画を作成している。	お茶会等、保護者同士が交流できる機会を設け、家族支援をさらに充実させる。
3	多職種連携による専門的支援。	児童発達支援管理責任者・保育士・児童指導員・理学療法士等が連携し、こどもの発達段階に応じた個別・集団活動を組み合わせた支援を提供している。	外部研修への積極的参加や職員の専門性向上を継続し、支援の幅を広げる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアル類・安全計画の保護者・職員への周知不足。	マニュアルや安全計画は整備されているが、周知する機会や手段が不十分であった。	保護者会や定例会議の場を活用し、マニュアル・安全計画の内容を定期的に説明・配布する機会を設ける。
2	第三者による外部評価の未実施。	外部評価の必要性は認識しているが、具体的な実施に至っていない。	外部評価の実施時期・方法を検討し、客観的な視点からの評価を業務改善に活かす体制を整える。
3	地域の子どもとの交流機会が限定的。	外出時に二次的な交流は生まれているが、意図的・継続的な地域交流の場が設けられていない。	保育所や地域の子どもたちとの交流活動を計画的に企画・実施し、インクルージョン推進を図る。